

小児腎疾患児の心理特性について

—バウム・テストの面から—

小児腎疾患の長期管理における運動・食事・社会心理に関する研究 長期管理に由来する社会心理問題について

永 峰 博

小児慢性腎疾患児の心理的特性を知ることが目的として、バウム・テストを行ない、健康対象児群、喘息児群と比較した。又生活規制のおよぼす影響についても検討を加えた。

小児腎疾患，バウム・テスト

1. 始めに

小児慢性疾患の心理学的特性に関する研究としては、栗原、上野、長畑、高木等幾つかの先行研究がある。これを内容によってみると、

1 栗原等による小児が慢性疾患に罹患することによってもたらされる全般的な心理的变化に対して考察したもの

2 小児慢性疾患のうち代表的なものとして喘息、筋ジストロフィー、腎疾患、心臓疾患等をピックアップし、健康児群と比較対応しながら各々の特性について考察したもの

3 主として個々のケースについてその対応に重点をおいて考察したもの等がある。

又その研究方法からみてみると、心理特性—特に性格行動面に重点を於いた場合—大別して

- 1 行動観察を主とするもの
- 2 チェックリストを用いたもの
- 3 投影法

がある。
3の投影法は、ロールシャッハ・テストに代表されるような一定の図形刺激を提示し、これに対する反応を分析し、これを標準化したものと比較分析し、その人格傾向にせまろうとするものである。

本研究で用いたバウム・テストは、この第3の投影法のカテゴリーに属するものである。

本テストは、Emil Kochによって、筆跡学を基礎として、始めは職業適性の判定のためのテストとして開発されたもので、1970年に、彼の著書The Tree - Drawing Test as an Aid in Psycho-Diagnosis が林等によって翻訳され、産業精神衛生テストとして用いられ、その後学校における精神衛生テストとしても、用いられるようになってきている。

本テストは、画用紙と鉛筆（B2-B4）をあたえ「実なる木を書いてください」という指示を与えるのみである。

従って、被験者は所謂（性格）テストをされるというような緊張感、不安感がなくせいぜい「描画能力を見るため」くらいに考え比較的気楽にテストに応じてもらえる。

又用具も簡素であり、時間的にも短時間で施行できるというメリットがある。

しかし、他の心理検査にも言えることであるが、その結果が性格の全面的な表出を捉えるには十分なものとはいえず、他のテストや観察と相互に補いあって、始めて診断上の価値があるものとされている。

国立特殊教育総合研究所

HIROSHI NAGAMINE

THE NATIONAL INSTITUTE OF SPECIAL EDUCATION

2. 対象ならびに方法

対象 対象は各種小児慢性腎疾患児20名で、今回はその内、発達段階・運動制限等を考慮して10歳以上15歳未満の11名を分析対象とした。(表1 対象児一覧)

表中NYは病初期より比較的運動規制が少なく現在全例、外来通院中の者であり、NEは比較的運動規制が厳しく、全例現在も入院中の者である。

方法 対象児にKoch等により開発されたバウム・テストを施行し、バウム・テスト

3項目、果実・花・葉3項目、その他5項目、計48項目の322の所見について、チェックしこれを同年齢の健常児群のデータと比較し、更にNE群、NY群についても比較検討した。

3. 結果

腎疾患児のバウム・テストの結果は、健常児群に比較して、「表2 健常児群に比し偏っていた項目」に示すごとく、幾つかの項目に偏りが見られた。即ち

第1表 対象腎疾患児一覧

	性	年齢	病名	発症年齢	入院回数	生活規制	学業成績
NE-1	女	11	間質性腎炎	3	頻回	有	下
NE-2	女	11	紫斑病腎炎	10	2	有	中
NE-3	男	13	ネフローゼ	5	4	有	下
NE-4	女	14	ネフローゼ	10	4	有	下
NE-5	女	15	CAPD	11	3	有	中
NY-1	女	11	紫斑病腎炎	7	0	無	上
NY-2	男	11	ネフローゼ	6	1	有	
NY-3	男	11	膜性腎炎	9	1	無	
NY-4	男	11	ネフローゼ	1	6	有	
NY-5	男	12	ネフローゼ	9	1	無	
NY-6	男	15	ネフローゼ	13	4	無	

整理表によって整理し、各項目の出現率等を求めた。

その解釈にあたっては関係職員からの情報や面接結果を参考にした。

テストにあたっては、画用紙と2B-4Bの鉛筆をあたえ、「実のなる木をかいてください」という指示をあたえるのみとした。

出来上がった絵を、Kochの整理表にしたがい、

全体所見 12項目、風景・附属物 1項目、地平線・地面 2項目、地平線と幹の関係 1項目、根 5項目、幹 9項目、枝

1) はみ出し 「生活空間からの逸脱、環境からの回避、自己拡大の欲求を意味する」といわれる「画面からはみ出し」が、11例中7例、特にNE群で5例中5例と健常児群の35%(一谷による 以下同じ)に比し多く見られた。又この中に「自己拡大の欲求を抱きながらも精神的エネルギー乏しかったり、環境からの強い圧力を感じている状態」を表わすといわれる筆圧の弱い者がNE群に2名あった。

2) 地下縁立 「過去・家族・社会に基づく安定性がない、「子どもっぽい、自信

がない」等を示すといわれる「画面の下縁から直接幹が書きだされている」ものが6例で、対象群の30%に比し、稍々多いように思われた。

3) 幹の散漫な輪郭 「自・他の境界認識が弱い、他者に影響されやすい、感じやすい等」を示すといわれる「幹や枝の輪郭の線が散漫に描かれているもの」が、対象群の13%に比し7名と多く見られた、この傾向はNY群に6名中5名とより顕著であった。

5名中2名、NY群で6名中0とNY群で少なかった。

7) 雲ボール状冠 「集中力、エネルギーの欠如、現状に抵抗することを恐れる、現実生活を恐れるなど」を示すという「雲のような形をした樹冠」はNE群で5名中3名、NY群で6名中0で、対象群の11.7%に比べNE群で多く、NY群で少なかった。

8) 果実・花・葉なし 「休止状態、友人関係の阻害」を示すといわれる「実や花、

第2表 健常児に比し偏っていた項目

項目名		腎疾患群		健常児群(%) (一谷による)
大項目	小項目	NE群 (5例)	NY群 (6例)	
全体	はみ出し	5	2	35%
	地下縁立	4	2	30%
幹	雲ボール型冠	3	0	11%
	散漫な輪郭線	2	5	13%
	表面真っ白	3	1	10%
	表面線	0	4	43%
枝	刈り取られた枝	2	0	10%
	平行枝	2	2	1%
	くびれのある枝	0	0	28%
果実	花・果実なし	5	4	0%

4) 幹の表面が白 「感じ易い、敏感、反応しやすい、外界との接触が淡白なこと等」を示すといわれる「幹の表面が影などが書き込まれず白紙のままなもの」が対象群の10%に比し、11名中4名でやや多いようであった。とくにNE群で5名中3名と多かった。

5) 表面線 「感じ易いこと」を示すといわれる「幹の表面に線のないもの」がNE群で5名中0、NY群で6名中4名と対象群の43%に比べ、NE群で少なかった。

6) 刈り取られた枝 「抑制、トラウマ、病後など」を示すといわれる「刈り取られた枝」は、対象群の10%に比しNE群で

葉の書かれていないもの」がNE群で5名中5名、NY群で6名中4名と対象群の0%に比し多かった。

4. 腎疾患児に於けるバウム・テストの結果のまとめ

以上のように、慢性腎疾患児の心理特性を全体的にバウム・テストの上から見ると、

「生活空間からの逸脱、環境からの回避、自己拡大意欲」を示すといわれる「はみ出し」が対象健康児に比して多く見られた。

「自他の境界認識が弱い、他者に影響され易い、感じ易いことなど」を示すといわれる

「幹の輪郭の散漫な線」, 「過去・家族に基づく安定性のなさ, 自信のなさ」を示すといわれる「地下縁立」, 「感じ易さ」を示すといわれる「幹表面の線」, 「感受性の豊かさ, 月並み, 現状からの逃避」を示すといわれる「雲ボール状冠」などが多く見られた。

又「外界との接触を淡泊にたもつこと」を示す「幹表面真っ白」も多く見られた。

5. 考察

(1) 他の慢性疾患児(喘息児)との比較

以上のようなバウム・テストの結果が腎疾患そのものの影響なのか, 小児期の慢性疾患に共通な影響なのかを検討するために同時に行なった小児気管枝喘息児に行なったバウム・テストと比較してみると, 表3「腎疾患児と喘息児との比較」のごとく,

第3表 腎疾患児と喘息児の比較

項目	喘息(%) (N=37)	腎疾患(%) (N=11)
はみ出し	24.3	63.6
表面真っ白	45.5	48.6
幹輪郭散漫線	29.7	63.6
果実花葉なし	13.5	45.5

腎疾患児において「はみ出し」は, 健康対象児群に比し喘息群では差がみられなかったが, 腎疾患児群では多く見られた。「幹の表面真っ白」は対象児群に比し, 喘息児群, 腎疾患児群共に同程度多く同じような傾向を示した。「幹の輪郭線の散漫」「実・花・葉なし」は対象児群に比し喘息児群も多かったが, 腎疾患児群では更に多かった。

(2) NE群とNY群の比較

又上記のようなバウム・テストの結果が, 慢性疾患による生活規制など種々の要因による二次的な影響なのか否かを検討するため,

比較的入院など生活規制の多いといわれるNE群と, 入院期間も短く生活規制も少ないといわれるNY群とを比較してみた。

(表4 腎疾患における生活規制による差)

第4表 腎疾患における生活規制による差異

項目	入院児 (N=5)	通院児 (N=6)	健全児群
はみ出し	5	3	35%
幹表面真っ白	4	1	10%
幹表面線	0	4	43%
刈り取られた枝	2	0	10%
雲ボール状冠	3	0	11%

1 はみだし NE群で5名中5名, NY群で6名中3名と, 特にNE群で多かった。

2 幹表面真っ白 NE群で5名中4名, NY群で6名中1名と対象群の10%に比しNE群に多く見られた。

3 幹表面の線 NE群で5名中0, NY群で6名中4名と対象群の10%に比しNE群で少なくNY群で多いように思われた。

即ち, 生活規制の多いといわれるNE群に「はみ出し」, 「幹表面真っ白」が多かった。

6. まとめ

腎疾患においては, 対象に比し, 前記のような傾向が見られた。しかし腎疾患で多かった「はみ出し」「雲ボール状冠」は運動規制の強いNE群で多く, 「幹表面真っ白」は喘息にもNE群にも多く, 「幹の輪郭の散漫な線」は喘息でもやや多く, 特に腎疾患に特有な所見というより生活規制等の二次的な要素が強く, 腎疾患では少数例ではあったが特に生活規制の多い群では, それらの傾向が強くていているようにも思われた。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



小児慢性腎疾患児の心理的特性を知ることが目的として、バウム・テストを行ない、健康対象児群、喘息児群と比較した。又生活規制のおよぼす影響についても検討を加えた。